



代っ子通信

令和6年7月4日

〈第18号〉

校長 平塚智康

子どもが主役の授業を目指して～県外から多くの視察～

6月26日（水）、加賀市の学びの改革・山代小の子どもが主役の授業づくりの視察に、県外（遠くは沖縄県うるま市）から約80人の教職員・教育関係者等が訪れました。加賀市議会の教育民生委員会の市議の皆さんも視察されました。

工業化社会から情報化社会を経て、今はあらゆる場所でデジタル技術が活用され、社会や生活の形を変えるDX（デジタルトランスフォーメーション）の世界に入っています。新しく価値を生み出すための仕組みや産業構造がこれまでと大きく異なるため、子どもたちが生きていく時代に求められる力や思考・発想も大きく変化してきています。そこで、加賀市では、「BE THE PLAYER 自分で考え、動く、生み出す、そして社会を変える」をスローガンに掲げ、学びの改革に取り組んでいます。

学びの改革のポイントは、「個々のスピードに合わせて、自分のペースで、自分で学ぶ」（「個別最適な学習」と言います）ことと、「たくさんの人と対話して、助け合って、共に学び合う」（「協働的な学習」と言います）ことの2つです。私たちがこれまでの学校教育の中で受けてきた一斉学習（全員が黒板の方を向いて、教師の指示に従って、全員が同じペースで学ぶ）とは異なり、教師は、子どもたちに、学びに向かう姿勢や多様な学び方をしっかりレクチャーし、学習のめあてを確認し、学習の見通しを立てた上で、子どもたちに学びを委ね、子どもたちの学びの自己調整力を高めていきます。本校では、こうした学習のことを「自己調整学習」と呼んでいます。

子どもたちに「自己調整力」が身につけば、自ら主体的に学んだり、友達と対話的・協働的に学んだりすることができるようになります。そういう学習を積み重ねていくことによって、子どもたちには、「ゼロからイチを生み出す力」「問題発見力」「課題解決力」等、これからの時代に求められる力が備わっていくものと考えています。

子どもたちに「自己調整力」を身につけさせていく学習のスタイルは、バスガイドさん（教師）が旗を振って観光地を先導する団体旅行ではなく、旅人自身（児童）がガイドブックや地図等を調べながら観光地を探索して回るの、一見すると教師が児童に自習させているように映ります。しかし、教師は児童の観光（学習）が充実するように、資料を準備したり、ヒントを出したり、友達と協働させたり、支援したりしています。そして、一人一人が学習のめあてに到達しているかを見取っています。つまり、全体を教え導く「ティーチング」から、子どもたち個々に応じた適切なサポートを行う「コーチング」へと、指導法が変化しているわけです。

本校では、5・6年生の国語・算数・社会・理科等の時間に、「自己調整学習」を取り入れています。3・4年生、1・2年生でも、発達段階や学年の実態に合わせて、少しずつ学びを子どもたちに委ね、子どもたちの「自己調整力」を高めていくよう学びの改革に取り組んでいます。まだまだ学びの改革は途に就いたばかりですが、子どもたちが主役の授業づくりを目指して、職員一同力を合わせてがんばってまいります。



＜北國新聞 6月25日朝刊より＞



<視察に訪れたたくさんの先生方>



<6年生 国語の授業より>



<5年生 算数の授業より>



<4年生 理科の授業より>

3年生 社会科 ~れんさんの羊羹づくりを学ぶ!~

3年生の社会科では、地域の生産や販売の仕事について、見学・調査して多面的に学びます。山代小3年生では、「れんさんのようかんづくり」を題材にして、その学習を進めています。

6月27日には、れんさんのようかんづくり工場とお店を見学させていただき、ようかんの生産工程、ようかんの生産・販売の工夫や努力などについて学習を深めました。そして、なんとおみやげに、一人に1本ずつようかんをいただきました。勉強させてもらった上に、おみやげまで……。3年生たちは、とても幸せそうに学校に帰ってきました。(ちなみに「れんの羊羹」は私の好物でもあります。1本1人で丸かじりして食べてしまいます。れんさん、ご協力本当にありがとうございました。)



<工場の見学～生産のひみつ～>



<お店の見学～販売の工夫～>